

彩小ふれあいだより

平成22年11月26日

三和中校区小中連携研究会

広島市立彩が丘小学校
校長 竹川 智子



富永教諭が電子黒板を用いて、これから行う実験の手順の説明をしています。国から電子黒板が1台とすべての教室に50インチ大型テレビが配られました。視聴覚機器を効果的に使うことで、学習が効率的に理解されます。

11月19日(金)5校時、三和中学校区小・中連携教育研究会の公開授業が行われました。本校で実施されたのは、5年2組(担任:富永逸郎)の理科の授業です。三和中学校区では、6校(三和中、河内小、八幡東小、石内小、藤の木小、彩が丘小)で、年間2回、夏の全体研修会と11月の授業研究会を行っています。夏は広島市教育委員会生徒指導課 末本指導主事より、予防的生徒指導の推進について講話を聴き、研修を深めました。今回は、三和中では国語、河内小では言語数理運用科、八幡東小では音楽、石内小では体育、藤の木小では国語、彩が丘小では理科の授業公開がされました。三和中学区約130名の教員が6小中学校に分かれました。本校には20名の先生方が来られました。指導助言者には、広島市教育委員会指導主事三谷典久先生をお招きしました。

理科「物のとけ方」の学習です。本時の学習のねらいとすることは2つでした。物が水に溶けても、水と物とを合わせた重さは変わらないことがわかること。(質量保存の法則) 電子天秤を使って、水溶液の重さを調べ、記録することができること。

子どもたちの予想は、水に食塩を混ぜたら、合計の重さより少し軽くなる、変わらない、少し重くなる、食塩の重さが無くなる。予想は大体4つに均等に分かれました。2人組で実験です。きちんと水と食塩を計りとらなければなりません。慎重に協力し合い実験しました。課題解決に向けて大変集中した授業でした。

この授業が中学の学習のどこにつながっているのか。小学校ではどんな技能を身につけておかなければならないか。協議会では6校の教員が意見を出し合いました。

